

(5) 築川ダム（岩手県盛岡市）

◆実施主体

NPO 法人もりおか中津川の会

◆水源地域活性化調査時の活動内容

①炭づくり

- ・ダム湖への流木や河川管理で伐採した樹木の有効活用を図り、新たな特産（盛岡ブランド）につなげていくために、炭焼きを試行。
- ・炭焼き窯はダム上流部にある窯を使用（炭焼きの指導を受ける）。

②炭染め和紙づくり

- ・中津川の河川敷に繁茂するツルヨシを活用した和紙づくりを実施（廃校内の施設を使用）。
- ・和紙づくりにあたっては、河川への排水に配慮し、化学薬品を使用しない手法を模索（灰を代替品として使用）。
- ・作成した和紙を活用した特産品（ポストカード、クラフト等）を試作。

◆地域の関わり

築川ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「活動団体」が中心となり、「行政」、「アドバイザー」、「地域住民」の4主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
活動団体	●	●		●	●		
行政		△				●	
アドバイザー			●				
地域住民			●				

●水源地域活性化調査以降も継続
△水源地域活性化調査以降は撤退
○水源地域活性化調査以降に参画

◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で試行した『和紙づくり』を継続していましたが、平成23年に発生した『東日本大震災』の影響で活動の主軸が特産品開発から被災者支援に移っていきしました。

しかし、水源地域活性化調査を通して得られた行政との関係を活用し、被災者支援と水源地域活性化活動が両立できる『農園の整備・運用』につながっています。

◆課題

和紙づくりに関する専門的な知識・情報が不足しています。特に、植物から繊維を取り出し、和紙の強度を向上させるためには、専用の薬品（水酸化ナトリウム）を使用することが一般的ですが、水質汚濁の恐れがあるため、薬品の代替品を見つけていく必要があります。

また、水源地域活性化活動に携わっているメンバーの多くが高齢者であり、マンパワーが不足して

いることに加え、東日本大震災以降、その活動の主軸を被災者支援に移しているため、特産品開発を実施することは困難となっている。

◆まとめ

築川ダム水源地域では、地域との関わりが強い廃校を利用することで、「地域住民からの支援・協力」が受けやすかったこと、また、公共施設の利活用のために「行政機関との関係構築」が築きやすかったなどにより、順調に活動を推進していくことができました。

また、東日本大震災の発生によって当初の活動は停滞しましたが、行政からの声かけにより被災者支援を目的とした新組織の立ち上げにつながり、水源地域の活性化と被災者支援が同時に対応できる取組が継続的に実施されています。



築川



旧根茂田小学校（全景）

活動の流れ（梁川ダム）

